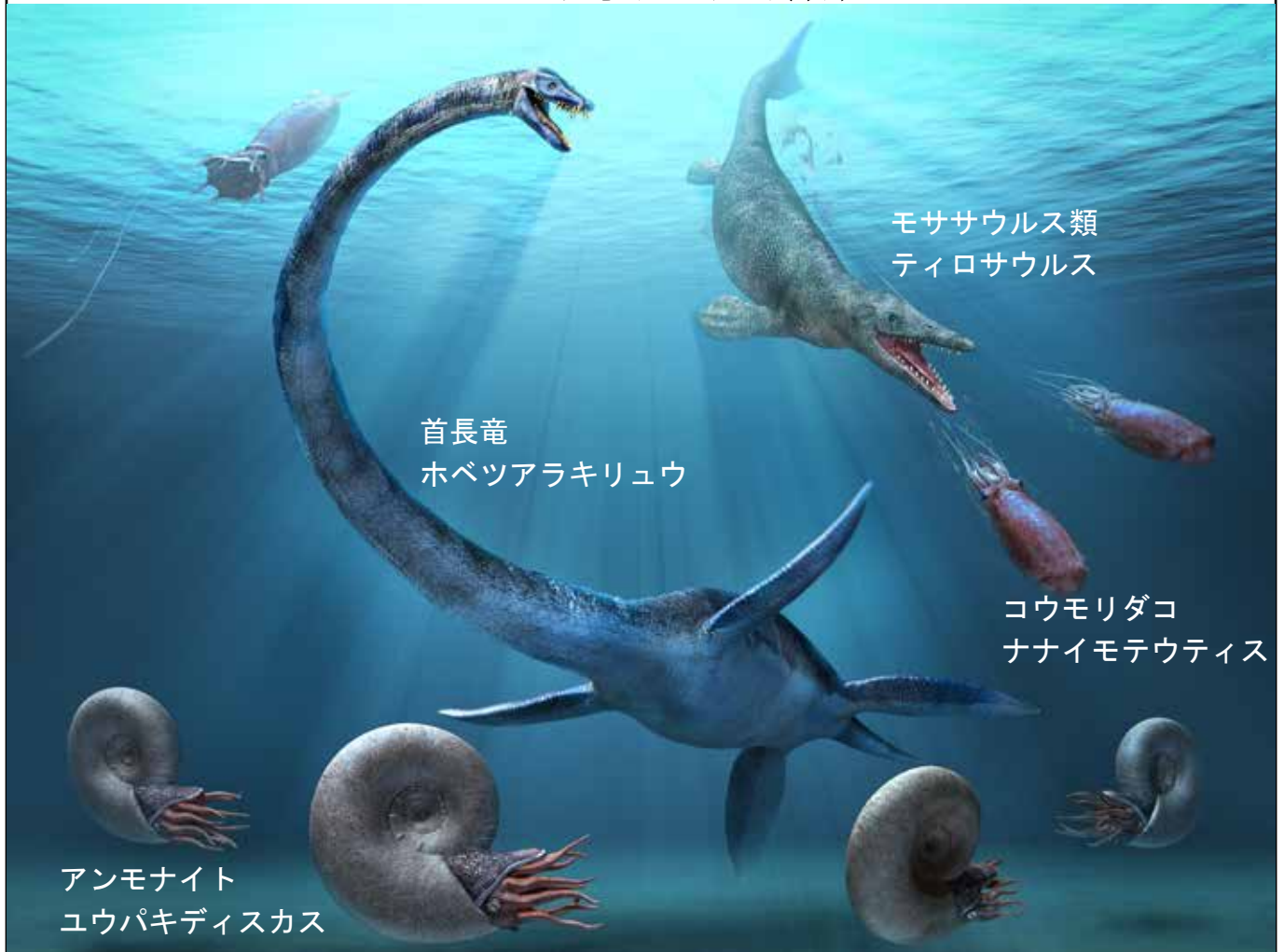




ホベツアラキリュウ化石 北海道天然記念物指定



モササウルス類
ティロサウルス

首長竜
ホベツアラキリュウ

コウモリダコ
ナナイモテウティス

アンモナイト
ユウパキディスカス



ホベツアラキリュウ化石
復元模型（穂別博物館）

ホベツアラキリュウと穂別地域産のほぼ同時代（白亜紀サントニアン期～カンパニアン期前期）の生きもの。画：服部雅人氏

9月29日にホベツアラキリュウ化石が34件目の北海道天然記念物に指定されました。化石としては1984年に指定されたタキカワカイギョウ化石標本以来、33年ぶり2件目の北海道天然記念物となりました。

1975年に発見、1977年に発掘されたホベツアラキリュウ化石は、1989年にクビナガリュウの全身骨格標本として日本で最初に古生物学的記載が行われたことなど、その学術的価値が高く評価されています。ホベツアラキリュウ化石は、町立の博物館設立の契機となっただけでなく、ホッピーの愛称で地元住民に愛され、公園や建物、少年野球チーム名などに用いられていることなども評価され、今回の天然記念物指定へつながりました。

むかわ町天然記念物紹介 しょうかい

モササウルス・ホベツエンシス

(むかわ町文化財第5号) ぶんかざい



モササウルス・ホベツエンシス
(*Mosasaurus hobetsuensis*)
(HMG-0012) の右ヒレ



モササウルス・ホベツエンシス
の胴椎と肋骨

穂別博物館開館直後の1982年11月に鈴木茂学芸員によって発見された化石です。日本及び北西太平洋地域ではじめて新種とされたモササウルス類*です。

右のヒレ、胴椎、肋骨と歯が発見され、日本で発見されたモササウルス類の内、まとまった骨格が発見された初めての例です。全長が5.5 mと推定され、前回紹介した小型モササウルス（フォスフォロサウルス・ポンペテレガンス）と同じ時代に生息していました。モササウルス類が棲み分けをしていた証拠；小型モササウルスが夜行性で、このモササウルスが昼行性と考えられるようになった点でも重要な化石です。

* 発表論文：鈴木茂，1985．北海道穂別町の上部白亜系函淵層群産海棲トカゲ *Mosasaurus* の一新種．地団研専報第30号，p.45—66．

学芸員 西村智弘



むかわ町穂別博物館

開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

観覧料 個人/小~高校生: 100円

大人 300円

団体/小~高校生: 50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

2017年10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2017年11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

休館日 ○町民無料観覧日